

「健康のまち行動計画策定にむけて」 「ウェルネス・アクションつる」その5



— 公開講座の様子 —

「都留市のまちづくり」
— 市長、学長、学生、職員そして
主役の市民がともに学んだ六日間 —

都留文科大学公開講座、県民コミュニティカレッジが十一、十二月にかけて、六回行われました。「都留市の地域づくり、まちづくりを考える、そしてデザインする」をテーマに、ミュージアム都留の研修室で、約三十人の受講者が学びました。産業、健康、大学、行政など、様々な角度から都留市のまちづくりについて、講義あり、討議あり、そして最終日には都留

文科大学中村陽一助教授の進行のもと、グループごとに「都留市の夢」を自分達で創作してみました。

この公開講座もウェルネス・アクションつるの取り組みを題材として学び、意見交換が活発に行われました。グループの話し合いの様子を紹介します。

まずは、各自、思い思いの夢・願いを紙に書きました。「人が集まるまち、古いものを大切にするまち、小さい子どもが枯れ葉で遊べるまち、ごみが落ちていないまち、みんなが自立心を持ち、それでいて相手の立場を思いやれる人が住むまち、あいさつと笑顔のあるまち、学生が好きと言えるまち、子どもが戻ってきたいま(故郷)」など。



グループ内で、自分達の意見を出し合いました

次に、具体的な改革の希望、提案を出し合いました。「いつでも人がゴチャゴチャと集まれる場所がある。育成会などで子ども達の力を生かした取り組みをする。広くのびのびとした公園。お城山に頂上まで桜の木を植える。手の加えていない自然を残す。市民と学生の交流。一人ひとりが相手を思いやる。ローカルマネー活用」など白いポストターはみんなの意見でいっぱいになりました。



各グループごと、まちづくりに対する意見を
ポスターにまとめました

参加者からの声

40代男性 建築士

健康なまちづくりの一端として地域社会の健康を考えたとき、地域に対する愛着、住みやすさといった住民の生活意識や社会・福祉活動への参加、また、NPO、市民グループといった住民活動の組織化が必要となっている。

今回の講座を通して、改めてまちづくりの重要性が認識され、学生を含めた各年代層の人たちとの意見交換は大変有意義であった。これからは、ネットワークを拡げ、希望の持てる、ひらがなの「まちづくり」に参画していこうと思う。

40代女性 主婦

都留文科大学は、今までの私のイメージをはるかに越え、「地域を考える大学」に成長していた。これが公開講座に参加した感想でした。

第一線で活躍している講師の方々のお話を直接聞くことができ、毎回興味深いテーマや、新しい情報など、この講座を通じて、大学のすばらしさに気がつき、この大学がある都留市に生活していることを、とても、誇りに思いました。

これからも、市民が参加できる公開講座、セミナーなどの企画を楽しみにしています。

2000年は夢実現に向かって

地方分権時代となる2000年を迎え、市民一人ひとりの小さな力が一つとなり、大きな力に変わるとき、都留市の夢は叶います。その小さな力が今、少しずつ、それでいて、確かにここにある実感。皆さんの力で夢が理想でなく、現実となりえるのです。

これからは、市民の皆さん、あなたが主役です。ご意見お待ちしております。

